

令和8年10月15日



開進三中だより

< 第6号 >

—◆たぐましい人◆考える人◆心豊かな人◆助け合う人— 練馬区立開進第三中学校

全国学力・学習状況調査の結果より (中学3年生 4月実施)

平均正答率 (%)

	全 国	東京都	本 校
国 語	63.9	68.0	68.0
数 学	57.0	62.0	63.0
英 語	499 点	529 点	539 点

※英語はIRT(項目反応理論)標準スコアです。問題の難易度や受験者の正誤パターンを分析して、基準集団の成績が「平均点 500・標準偏差 100」の正規分布になるように換算した値です。

本校生徒の学力に関してはおおむね良好であると受け止めています。課題としては、全国平均に達していない生徒を「分かる」「できる」ようにするための指導の充実を図ること、そして言語活動(思考力・判断力・表現力等の育成)を取り入れた学習内容と指導の充実を図ることです。本校生徒の正答率が比較的低かった部分について分析し、今後の学習指導の充実・改善にあたります。

【1】国語の調査結果

国語の平均正答率は68%であり、東京都(68%)と同等、全国(63.9%)を約4ポイント上回っています。

領域別の特徴:「書くこと」の正答率が71.6%と高く、全国平均(67.4%)を上回っています。

「知識・技能」(68.1%)および「思考・判断・表現」(67.6%)のいずれの観点においても、全国平均を上回っています。

具体的な強み:

助動詞の働き(問題 1-1:正答率 88.4%)や、単語の活用(問題 1-3:同 88.4%)といった文法・語彙の知識が定着しています。

文章全体を整理する力(問題 3-2:正答率 92.6%)も極めて高い数値です。

記述式の状況:

記述式の正答率は47.7%(3問の平均)で、全国(45.5%)を上回っています。これは、生徒質問紙調査の結果にあった「記述問題に最後まで取り組む姿勢」が正答率にも結びついていると考えられます。特に顕著な差が見られたのは、文章を読んで理解したことに基づき、自分の考えを書く問題です。

- ・二つの例文を比べ、擬態語「きっぱり」が表す具体的な様子とその効果を記述する問題(問題 4-4)では、正答率が37.9%で都44.8%、国38.9%より低い結果となっています。
- ・改善点の記述(問題 3-4): 書いた文章について交流し、よい点や改善点を書く問題では、正答率 51.6% (国 45.0%)と高い結果となっています。
- ・多角的な視点:「思考力、判断力、表現力等」の観点(67.6%)が全国平均(63.7%)を上回っており、相手の立場を尊重しながら話し合い、結論を導くといった活動が実を結んでいると考えられます。

【2】数学の調査結果

数学の平均正答率は63%で、東京都(62%)および全国(57.0%)を共に上回っています。

領域別の特徴:

「数と式」(70.0%)や「関数」(64.5%)の領域で、全国平均(それぞれ 67.8%、59.2%)を大きく上回っています。特に「思考・判断・表現」の観点では、正答率 47.6%で、全国平均(39.1%)を 8 ポイント以上上回っており、単なる計算ではなく「数学的なプロセスを説明する力」が高いことが分かります。図形問題において、証明の根拠となる「仮定」を見出す問題(問題 8-3)では、正答率が 54.3%と 17 ポイント以上上回っています。これらの結果は、事象を数学的に解釈し、筋道を立てて説明する力が備わっていることを示しています。

具体的な強み:

正負の数を用いた変化の表現(問題 1:正答率 90.4%)や、累積度数の理解(問題 9-1:45.7%)など、基礎から応用まで幅広い定着が見られます。

証明問題における仮定の見極め(問題 8-3:54.3%)については、全国平均(37.1%)を大幅に上回っており、論理的な思考力の高さが伺えます。

記述式の状況:

記述式の正答率は 47.6%であり、全国(39.1%)と比較して高い水準にあります。

【3】両教科に共通する傾向

問題形式別のパフォーマンス: 選択式、短答式、記述式の全ての形式において全国平均を上回っています。

粘り強い学習態度: 両教科ともに無解答率が比較的低く抑えられており、難しい問題に対しても白紙で出さないという生徒たちの主体的な受検態度が表れています。

国語・数学の記述問題において「最後まで書こうと努力した」生徒の割合が全国平均より高く、無解答率も全国平均より低くなっています。開進三中の生徒は、「豊かな語彙・文法知識」をベースに、「表現の工夫や効果を論理的に分析する力」を備えており、それを「粘り強く言語化する」というプロセスが確立されていることが、記述問題での高い成果につながっているようです。また、学校全体の傾向として、道徳などの授業においても「自分の考えを深めたり話し合ったりする活動」に積極的に取り組んでいる生徒の割合(59.8%)が全国平均より高いことが分かっています。授業内で他者の意見を聞き、自分の考えを再構築する経験が豊富であることが、数学において「事柄を統合的・発展的に考え、その特徴を数学的に表現する」という高度な思考力に結びついている可能性があります。

【4】英語の調査結果

R8年度は英語も実施されました(R7年度は理科でした)。開進第三中の生徒は、「書くこと」を中心に高い表現力が身に付いており、特に成績上位層の厚さが特徴です。

(1)全体的な傾向とスコア

IRT スコア:開進三中は539点で、東京都(529)、全国(499)と比べ上回っています。また、学力を段階的に示す「IRT バンド」において、最高レベルの「バンド 5」に属する生徒が 11.7%に達しており、全国(5.7%)や東京都(8.9%)と比較して、上位層が多いことが分かります。

平均正答数: 全9問中5.2問で、東京都平均(5.1問)および全国平均(4.5問)を上回っています。

技能別平均正答数:

「聞くこと」: 1.4 問 / 2 問(都1.3、国 1.2)。「読むこと・書くこと」: 3.0 問 / 5 問(都3.0、国 2.6)。

「話すこと」:0.8問 / 2 問(都0.8、国 0.7)。

(2)領域別の具体的な強み

「書くこと」の表現力:

- ・与えられた情報に基づいて過去の出来事を説明する問題では、75.5%(全国 58.9%)という高い正答率です。
- ・自分の考えや理由を整理して書く問題で 44.8%(全国 27.8%)と、全国平均を上回っています。
- ・「聞くこと・読むこと」の活用力:条件に合うウェブサイトを選択する問題で 75.0%(全国 63.8%)、説明を聞いて場所を判断する問題で 84.4%(全国 76.0%)など、実生活に近い場面での情報処理能力が高い傾向にあります。
- ・「話すこと」:電話での依頼(問 15)の正答率が 51.2%(全国 32.1%)と極めて高いです。

(3)学習意欲と家庭での取り組み

生徒質問紙調査の結果から、英語に対する高い意識が結果に結びついていることが伺えます。

将来への有用感: 英語の学習が「将来、社会に出たときに役に立つ」と回答した生徒は 72.2%で、全国平均(60.2%)を12ポイント上回っています。

家庭での ICT 活用: 宿題などで PC・タブレットを使って英語の音声を聞いたり練習したりする生徒が「ほぼ毎日」いる割合は 11.3%で、全国平均(4.7%)の 2 倍以上となっています。

(4)今後の課題(数値が低めだった項目)

聞き取りの概要把握: 発表を聞いて内容に合う絵を順に選ぶ問題(問題 4)では 31.0%(全国 43.8%)と、一部の聞き取り問題で全国平均を下回るものが見られました。

授業内での ICT 活用(書く活動): 授業でキーボードを使って英語を書く活動を「よく行った」生徒は 6.2%に留まり、全国平均(17.0%)より低くなっています。

(話す活動): 留学生と一緒にしたいこととその理由を話す(問 16)の正答率が 50.0%(都平均 59.0%)、社会的な話題について考えを述べる(問 19)の無解答率が 17.7%。自分の考えを理由とともに説明する力や、社会的な話題へ英語で意見を書き出す(または話し出す)ことに課題があります。

生徒質問紙調査より(中学3年生 4月実施)

この調査結果は、生徒の生活習慣、学習態度、および学校生活に対する意識を、東京都や全国の公立中学校と比較したものです。開進三中の生徒は、家庭での学習環境が整っており、特に英語学習や長時間の家庭学習、読書に対して意欲的に取り組んでいる様子が伺えます。

【1】生活習慣と家庭環境

家庭でのコミュニケーション: 「学校での勉強について家族とほぼ毎日話す」生徒の割合は 40.2%で、東京都(32.8%)や全国(29.3%)を上回っています。

基本的な生活習慣: 朝食を毎日食べる生徒は 77.3%で、都(78.0%)や全国(78.4%)の平均とほぼ同等です。

【2】学習態度と家庭学習

家庭学習時間の長さ: 平日に「3時間以上勉強する(学習塾等を含む)」と答えた生徒は 21.6%に達しており、全国平均(8.9%)の2倍以上、東京都平均(13.1%)を大きく上回っています。一方、11.3%の生徒が30分以下と答えています(都14.2、国18.4)。

読書と新聞:「本(教科書等を除く)をほとんど読まない」生徒は 17.5%で、全国(40.7%)に比べて読書習慣がある生徒が多いです。一方で、新聞を「ほとんど、または、全く読まない」生徒は76.3%と高い数値です(全国84.0、都84.2)。

テストへの取り組み:国語の記述問題で「最後まで書こうと努力した」生徒は 80.0%(全国 72.4%)、数学では 63.8%(全国 57.6%)と、いずれも高い傾向にあります。

【3】ICT の活用状況

授業での利用頻度:1、2年生の時に「授業で週3回以上 PC・タブレットを使用していた」生徒は65%に留まり、東京都(83.4%)や全国(78.2%)に比べて授業内での ICT 活用頻度が低いという結果が出ています。一方で、英語の家庭学習(宿題)として PC・タブレットで音声を開いたり練習したりする頻度は「ほぼ毎日」が11.3%にのぼり、東京都(6.3%)や全国(4.7%)を大きく上回っています。

ICT スキルへの自信:活用頻度は低いものの、「ネットを使って情報を収集する(64.9%)」や「キーボードで文章を書く(42.3%)」といったスキルについては、都や全国と概ね同水準の自信をもっています。

【4】教科に対する意識

国語:「将来、社会に出たときに役に立つ」と考える生徒が 49.5%と高く、学習の意義を感じている生徒が多いです。

数学:「数学の勉強が好き」な生徒は26.8%で、東京都(30.3%)をやや下回っています。また、将来の有用性を感じる生徒も 30.9%で、都(39.8%)より低い傾向にあります。

英語:「将来、英語を好んで使う生活や職業に就きたい」と考えている生徒は 14.4%ですが、授業で学習したことが「将来、社会に出たときに役に立つ」と考えている生徒は 72.2%と非常に高く、実用的な価値を認めています。また、家庭学習で PC・タブレットを使い「英語の音声を開いたり話す練習をほぼ毎日している」生徒は 11.3%です。これは全国(4.7%)や東京都(6.3%)の約 2 倍近い数値であり、授業外での積極的な ICT 活用が目立ちます。

道徳:「道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」生徒は 59.8%で、全国平均(50.7%)を上回っています。

【5】学校生活と自己肯定感

学校生活:「学校に行くのは楽しいと思う」は83.5%(都85.7、国85.4)、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある、ときどきある」は87.7(都91.0、国91.0)とやや低くなっています。

規範意識:「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と強く認識している生徒(62.9%)が多いですが、都(73.1%)や全国(76.3%)と比較するとやや低くなっています。

自己肯定感:「自分には、よいところがあると思う」に対して「当てはまる、どちらかと言えば当てはまる」と答えた生徒は86.6%で、東京都(84.7%)や全国(84.0%)よりも高い傾向が見られます。

【6】日常生活における幸福感

幸せな気持ちの頻度:「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という問いに「よくある」と答えた生徒は 52.6%で、全国平均(46.1%)より高い数値です。日々の生活に対する満足感の高さが、自分自身を肯定的に捉える基盤となっていることが伺えます。

開進三中の生徒は、家庭での強いサポートを受けながら、学習や読書にひたむきに取り組み、日々の生活に幸福を感じているという特徴があります。この「努力が結果に結びついているという実感」や「周囲(家庭)からの承認」が、高い自己肯定感を育てている主な要因ではないでしょうか。